

登録コード:MH420300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	発達障害作業治療学 【20M以降】 Occupational therapy for developmental disorders			
担当教員	田中 佐千恵 佐藤 正彬・上村 智子			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/3年生 前期 金曜・1時限			
単位数、講義室	1単位	保健学科OT実習室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		・発達障害の特性を知り障害児や家族の生活のしづらさや発達支援の重要性を説明できる． ・治療用おもちゃの作製を通して協働する態度・能力を学習する． ・おもちゃの作製を通して他者とのコミュニケーションスキルを習得する．	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		・発達障害の特性を知り障害児や家族の生活のしづらさや発達支援の重要性を説明できる．	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		・治療用おもちゃの作製を通して協働する態度・能力を学習する． ・おもちゃの作製を通して他者とのコミュニケーションスキルを習得する．	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	発達障害領域で主に対象となる疾患について、病態像，臨床症状，障害特徴，リハビリテーションの基本原理および，作業療法における治療技法について学習する． 発達障害児の療育システムにおける作業療法士の役割，他職種との連携，家族支援について学習する． 臨床実習での作業療法経験をもとに，発達障害領域の対象児の治療に活用できるおもちゃを考案・作製し，作業活動としての遊びの意義や，対象児の発達段階に応じたおもちゃの活用法について学びます． 本授業は，1年次に学んだ「人間発達学」および2年次前期に学んだ「発達障害評価学実習」，2年次後期の「小児科学」，「発達障害作業治療学」の内容の知識を前提とし，2年次～3年次の「作業療法評価学実習」および「作業療法治療学実習」と相補的に学んでいくこととなります．そして本科目の内容は，3年次後期に学ぶ「地域作業療法学」，ならびに4年次の総合臨床実習における重要な基礎知識となります． 本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます． 本授業は担当教員の医療機関，福祉施設における作業療法士としての実務経験を活かして行います．			
授業計画	第1回（4月10日）オリエンテーション・療育システムと作業療法（田中・外部講師） 第2回（4月17日）知的能力症，ダウン症の作業療法と感覚統合療法（外部講師夏休み集中） 第3回（4月24日）知的能力症，ダウン症の作業療法 レポート発表・補足講義（田中） 第4回（5月8日）SLD，ADHDの作業療法 レポート発表（田中） 第5回（5月15日）SLD，ADHDの作業療法 補足講義（田中） 第6回（5月22日）自閉症スペクトラム障害の作業療法 レポート発表（田中） 第7回（5月29日）自閉症スペクトラム障害の作業療法 補足講義（田中） 第8回（6月5日）肢体不自由児の作業療法（外部講師夏休み集中） 第9回（6月12日）中間試験（第1回～第7回までの学習内容）（田中） 第10回（6月19日）治療用おもちゃの製作 導入・計画立案（佐藤） 第11回（6月26日）治療用おもちゃの製作 グループ製作演習（佐藤） 第12回（7月3日）治療用おもちゃの製作 グループ製作演習（佐藤） 第13回（7月10日）治療用おもちゃの製作 グループ製作演習（佐藤） 第14回（7月17日）治療用おもちゃの製作 グループ製作演習（佐藤） 第15回（7月24日）特別支援教育と作業療法（佐藤・外部講師） 第16回（7月31日）治療用おもちゃのグループ発表（佐藤） 授業アンケートの実施 第17回（8月7日）集中講義：3・4・5コマ（外部講師）			
授業の進め方	<知的障害・発達障害の作業療法> レポートは発表する回の1週間前に提出・配布し，他の学生は資料を読んだ上で授業に出席する（初回の学生のみ授業3日前）． レポートについては不十分な点があれば再提出や追加資料を求める場合がある． 教員の補足講義は，学生のレポートを基に，学生発表で不足している点や，より深い内容について，教員の用意した資料とスライドを中心に進める．一部演習も取り入れる． 第2回，第8回の外部講師による授業は夏休み期間に集中で行う（8月7日）．			

授業の進め方	< 発達を促進するおもちゃ作成 > おもちゃの制作は複数名の学生から成るグループ単位で行い、小児の作業療法に活用できるおもちゃを計画し、実際に作製し発表する。この際に、発表用のレポートをグループ単位で作成する。 第10回～第14回までをおもちゃの計画立案と製作演習の時間とするため、十分な時間は確保しているが、授業時間内に完成しなかった場合には、7月31日までにおもちゃを完成させ、発表用のレポートを提出すること。
テキスト，教材，参考書	教科書：日本作業療法士協会監修：作業療法学全書第6巻 発達障害（改訂第3版），協同医書出版 参考書：岩崎清隆：発達障害と作業療法（基礎編），三輪書店 岩崎清隆：発達障害と作業療法（実践編），三輪書店 福田恵美子編：標準作業療法学 発達過程作業療法学，医学書院 神作一実編：作業療法学ゴールド・マスター・テキスト7 発達障害作業療法学（第2版）メジカルビュー社 辛島千恵子編：イラストで分かる発達障害の作業療法，医歯薬出版
成績評価の方法	成績評価は、期末試験，レポート発表，事前・事後学習を総合的に判断する 総合的評価の配分は中間試験50%，おもちゃ作成時の態度，作品，レポート発表50%とし、総計の60%以上を合格とする。 < 知的障害・発達障害の作業療法 > 中間試験は50点満点とする。発達障害の代表的な疾患について、障害特徴，治療等の理解度を確認する。 < 発達を促進するおもちゃ作成 > 計画段階での積極的参加，製作過程での積極的参加，発表の仕方，レポートの内容，作品のできばえによって50点満点で評価する。
成績評価の基準	中間試験の結果、知的障害・発達障害の特徴や作業療法について卓越した知識を習得していることが確認でき、かつ、発達特性を深く理解した上で独自性と治療的意義が極めて高いおもちゃを作成し、他者との意見調整やリーダーシップなどに優れ、論理的・科学的な説明と独自の視点による考察がなされたレポートが作成されていれば秀（90～100点），中間試験の結果が良好で、おもちゃの作成、発表とレジュメの内容が良好であった場合を優（80～89点），基本的な知識をある程度習得し、おもちゃの作成、発表とレジュメの内容が平均的であった場合を良（70～79点），知識もおもちゃ作成も最低限であった場合を可（60～69点）とする。 レポートの草案作成において生成AIの利用を許可しますが、最終的な成果物は学生自身の言葉で記述される必要があります。成績評価にあたり、提出物に関する質疑応答や口述試験を行い、学生本人の理解度を直接確認することで、厳格な評価を行います。
事前事後学習の内容	< 知的障害・発達障害の作業療法 > 事前学習：授業1週間前に次回の授業の資料をeALPSにアップロードするので読んで質問を考えてくる。担当になった疾患についてのレポート作成を2～3名で行い、図書館の本・論文の検索を行いまとめる。 < 発達を促進するおもちゃ作成 > 事前学習：おもちゃの作製では毎回の授業に必要な資料，物品等を事前に確認して準備してくること。材料の購入は担当教員が行うため，必要物品を事前にリストアップすること。講義に関しては，自己学習が必要な内容を前回の講義の中で説明するため，事前に指定した資料に目を通してくること。 事後学習：おもちゃの作製に関しては，授業時間内に解決できなかった課題等を検討し，次回までに解決しておくこと。授業時間内に作品を完成できなかった場合は，第16回のグループ発表会までに完成させておくこと。 本授業の単位習得には45時間の学習が必要であるため，以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）+自己学習時間15時間（1時間×15回）=45時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	発達領域では特に重要な疾患別作業療法の内容ですので，事前・事後学習をを充分にして授業に臨んで下さい。レポート作成にあたっては，まず，図書館の本・論文を調べ，その上で不足している内容は随時，教員に相談して下さい 質問への対応： 田中佐千恵 sachifuk@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 佐藤 正彬 msato1413@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡）